



令和3年度 港区立白金小学校 学校経営計画

1 教育目標

個性的で創造的な行動と協調的で愛情ある行動ができ、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる人間を育てる。このために、次の合言葉を定め、児童・保護者・地域が誇れる学校づくりを推進する。

(合言葉) 自分をみつめ まわりもみつめ
ひとを生かし 自分も生かし
めあてをもって 努力を続ける

港区が目指す子供の姿
夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子供

2 目指す学校像

日本一の学校～白金プライドをもって～

本校は開校146年目になる伝統と歴史のある学校である。地域の方や保護者は、白金小学校は昔からの名門であり、伝統を大切にするとともに常に先進的な教育活動を行っているという誇りがある。そして、未来を切り拓き、これからの社会を支える人材を育てる学校であるという強い思いがある。そこで、その期待に応えるのはもちろんのこと、これまでの白金小学校以上の学校を創り上げる。教職員が一丸となって地域・保護者と連携し、白金小学校を日本一の学校にしていく。

何をもって日本一の学校かということ、〇〇ができたからということではなく、教職員も児童も保護者もそれぞれが今目指せる「最高のこと」を目標として、その達成のために日々全力を尽くしている学校のことである。

<具体的な姿として以下の学校を目指す>

「児童が生き生きと楽しく学び、安全で安心して過ごすことのできる学校」

- ・「分かった」「できた」という喜びを感じさせる授業の展開
- ・これからの社会を生き抜く力の定着
- ・友達や先生との良好な人間関係の構築
- ・交通事故や不審者、校内での怪我などから身を守る危険回避能力の習得

「児童・保護者・教職員が学校を愛することのできる学校」

- ・学校での学習や行事の様子などの発信
- ・学校評価、学校評議員会などの意見を参考に学校経営を改善
- ・保護者や地域の皆様と協力・連携した教育活動の展開

3 中期的経営目標と方策

港区は「夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子供」を目指すべき子供の姿として掲げ、生涯にわたり自ら学び続ける意欲を養い、新たな価値を創造する、将来を担う人づくりに取り組んでいる。そのために学校は、保護者や地域と連携し、子供たちが安全・安心で、生き生きと楽しく学ぶことのできる、質の高い学校経営を目指す。

このことを踏まえ、教育目標を達成し、目指す学校像に迫るために、本校では、「人権尊重と豊かな心情」「深い学びによる自己実現力」「国際人としての資質」を児童に育てるべき資質能力として設定した。

そして、「港区学校教育推進計画」（令和3年2月）に学校の特色を加味し、方策を示す。

(1) 人権尊重と豊かな心情

- 人権尊重の精神を培い、他者の痛みを理解し公正公平に行動できる児童を育成する。
- 相手を思いやり、協調的で愛情のある行動をとるとともに、自己肯定感の高い児童を育成する。
- 倫理観や規範意識、公共の精神などの道徳心を身に付けた児童を育成する。
- 美しいものや優れたものに対して素直に感動する児童を育成する。
- 合唱団を特設クラブとして学校組織に位置付け支援するとともに、音楽活動を伴う特別活動を充実させる。

(2) 深い学びによる自己実現力

- 基礎学力を確実に身に付けるとともに、自ら学び、課題を見付け解決することのできる児童を育成する。
- 自ら学びに向かい、対話を通して新しい価値を創造することのできる児童を育成する。
- 自らの成長に関心をもち、健康な体づくりを意識して豊かなスポーツライフを実現する児童を育成する。
- 情報モラルを含む情報活用能力を身に付ける児童を育成する。

(3) 国際人としての資質

- 積極的に外国の文化や外国語に親しむ態度を養い、進んで他者とながら、コミュニケーションする児童を育成する。
- 我が国の伝統や文化の理解や体験を通して、国や地域を愛する児童を育成する。
- オリンピック・パラリンピック教育を通して、多様性を尊重し、他者と共生・協働することができる児童を育成する。

4 令和3年度の重点目標

中期的経営目標を踏まえるとともに、令和2年度の学校評価アンケート及び児童の実態から今年度の重点目標を以下のように設定した。

- 人権標語づくりや道徳の時間、いじめアンケートの実施を通して、「いじめは絶対に許されないこと」ということはもちろん、相手を思いやるやさしい気持ちを醸成する。
- 白金スタンダード（児童が学校生活で守るべき約束）を徹底し、全学級で同じ方法で生活習慣・学習規律の確立を図る。
- 児童の学習状況を把握・分析し、論理的思考力や課題解決能力を身に付ける。
- 体育・食育の授業改善を図るとともに、休み時間等で体力向上に向けた取組を意図的・計画的に推進する。
- 国際科の授業をはじめとした様々な場面で、外国語によるあいさつや簡単な会話をできるようにすることでコミュニケーション力の基礎を培う。そして、全国小学校英語教育実践研究会2021東京大会（令和4年1月実施予定）で成果を発信する。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で本校が応援する5つの国についての学習を進める。

5 資質能力を育成するための環境整備

資質能力を育成するためには教育内容の充実を図るとともに、学習を支える教育環境を整備することが大切である。教育環境とは、施設や設備だけではなく、児童にかかわる教員の指導力、家庭や地域との連携、外部人材の活用、また、教育活動を支援するシステムなども含まれる。

(1) 自覚と指導力のある教職員の育成

児童を教え導く教師の人格や力量こそ、児童の学びへの意欲を培い、一人一人の可能性を伸ばすための大きな要因となるものです。さらに、一人の教員の方では解決できない困難な問題でも、複数の教員が組織的に対応すれば解決できる場合が多くある。

学校の教育力向上を目指し、教職員の資質向上、組織的対応を進める。

- 学級担任という意識ではなく、副担任を含めた学年全体で児童を指導していくという意識を醸成する。
- 学力向上委員会を中心に、授業スタンダード（授業の進め方の基本を示したもの）を作成するとともに、チームズを活用した授業公開を通して授業力向上を図る。
- 様々な課題について、学年、校内委員会などの組織で対応するシステムを定着させる。

(2) 保護者・地域との連携強化

学校の教育活動を積極的に公開し説明するとともに、保護者や地域の方との情報の共有に努める。また、保護者会の実施方法を工夫し、担任と保護者、保護者同士が意見交換のできる場とする。

- 学校の教育活動を学校だよりやホームページ、Twitter で積極的に発信する。
- 地域支援人材、企業、明治学院大学など、地域の方を授業で講師等として積極的に活用する。
- 交通安全をはじめとする安全指導において、学校・保護者・地域で連携しながら児童を見守っていく。

6 感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策として以下のことに特に配慮する。

- ・毎朝の検温を確実にし、児童及び教職員の健康管理の徹底を行う。
- ・ソーシャルディスタンスを確保し、密接、密集の状態とならないように配慮する。体育館等に間隔を表すマークを設定し、適切な距離を保てるようにする。
- ・校内において常時マスクの着用を徹底し、飛沫感染等の防止に努める。
- ・休み時間や給食前以外にも、こまめな手洗いを励行する。
- ・教室等の常時換気を行うとともに、休み時間には窓を開放して空気の入れ替えを行う。
- ・放課後、階段の手すりや電灯のスイッチ、ドアノブなどの共有部分の消毒を行う。

7 教職員の働き方改革

働き方改革を推進し、授業準備の時間や子供と向き合う時間を確保するとともに、教職員のライフワークバランスを改善する。

- ・週時程の見直しを行い、放課後を有効に活用できるようにする。
- ・積極的な年休取得の推奨や退勤時間の目標設定等を行うことで、ライフワークバランスを改善する。

8 取組の報告及び評価

今年度の取組状況については、保護者や地域の皆様に以下の方法で報告する。

- ・学校だよりに掲載する。
- ・ホームページで公表する。
- ・授業参観、学校公開日に特色ある教育活動について紹介する。
- ・学校評議員会で報告する。

目標達成についての評価は、以下の方法で実施する。

- ・教員による内部評価を実施する。
- ・保護者アンケートを実施する。
- ・学校評議員による評価を実施する。

評価結果は、整理し考察を加え、年度末に保護者や地域の皆様にお知らせする。